



日本はなぜ湿気が多いの

日本は四方を海にかこまれている

日本のように四方を海にかこまれている所では、海洋の気象の影響を大きく受けます。このような地域の気候を、海洋性気候といいます。海洋性気候の所では、湿度が高く（湿気が多い）、雲の量が多くて雨がよく降ります。

一年を通して雨がが多い

3月から4月にかけて、冷たい雨が降り続くことがあります。これは春の長雨で、ちょうど菜の花が咲くころなので、なたねつゆ（梅雨）ともよんでいます。6月中ごろから7月中ごろにかけて、北海道をのぞいて、くもりや雨の日が多くなります。この長雨のことをつゆといいます。

つゆがあげると、日本は太平洋高気圧におおわれます。太平洋高気圧からふき出す、高温で湿度の高い空気は日本全土をおおい、むし暑い日が続きます。9月になると、大陸にあった前線（暖かい空気と冷たい空気がぶつかる場所）が、南に下がってきます。これを秋雨前線といい、つゆのときのように長雨になります。

冬は大陸から、シベリア高気圧がはり出してきます。シベリア高気圧からふいてくる冷たい乾燥した北西の風は、日本海をわたるときに暖流の対馬海流の上を通り、そのときにたくさん水蒸気をふくんだ、雲をつくり出します。この雲が日本の中央にある山脈にぶつかって、日本海側に雪を降らせ、雪の多い日が続きます。このようなわけで、日本は一年を通して湿気が多いのです。（監修・村山 貢司）

